伝説・言い伝え

広野町の「町史」を見ますと，広野町にはたくさんの伝説や言い伝えなどがあります。その中から，いくつかを紹介します。

○　奥州日の出の松

昔，下浅見川を治めていた岩城判官正氏が，謀反人により殺されてしまいます。そのために，奥方は安寿姫と厨子王，それに乳母竹を伴って，諸国を巡る流浪の旅に出ますが，途中海賊に騙され，二人の子供は人買にさらわれてしまいます。奥方はこれを悲しみながら，乳母竹の里である浅見川村で亡くなってしまいます。一方，人買にさらわれ，厨子王とも離れてしまった安寿姫は，やっとのことで悪者の手から逃れますが，辿り着いた浅見川の地に倒れ世を去ってしまいます。これを哀れんだ村人達は，奥方と安寿姫の亡きがらを埋め，そこに松の木を植え手厚く弔いました。

○　二ツ沼と弁天坂

二ツ沼は，詩情溢れる地として知られています。万葉集第十四巻にも詠まれた場所は，まさに，ここをおいて無いとされ，歌碑が建てられています。また，１７８６年には，沼の洲に弁財天が祀られて，それ以降，ここで雨乞いの祈願が行われていました。このようなことから，二ツ沼を弁天沼ともいい，また，沼の東を通る坂を弁天坂とも呼んでいます。戊辰戦争では，この二ツ沼を中心とした地に，相馬藩・仙台藩を中心とした東